



屯倉神社

阿保神社

柴籬神社

2023年  
新春

# 開運



六社の参拜印で「卯」の張り子が授与されます

# 松原六社参りMAP

元旦～1月15日(日)までに参詣

受付時間:9時～17時(元旦のみ0時～)

※張り子と絵馬は数に限りがございますので、お早めにお参りください。



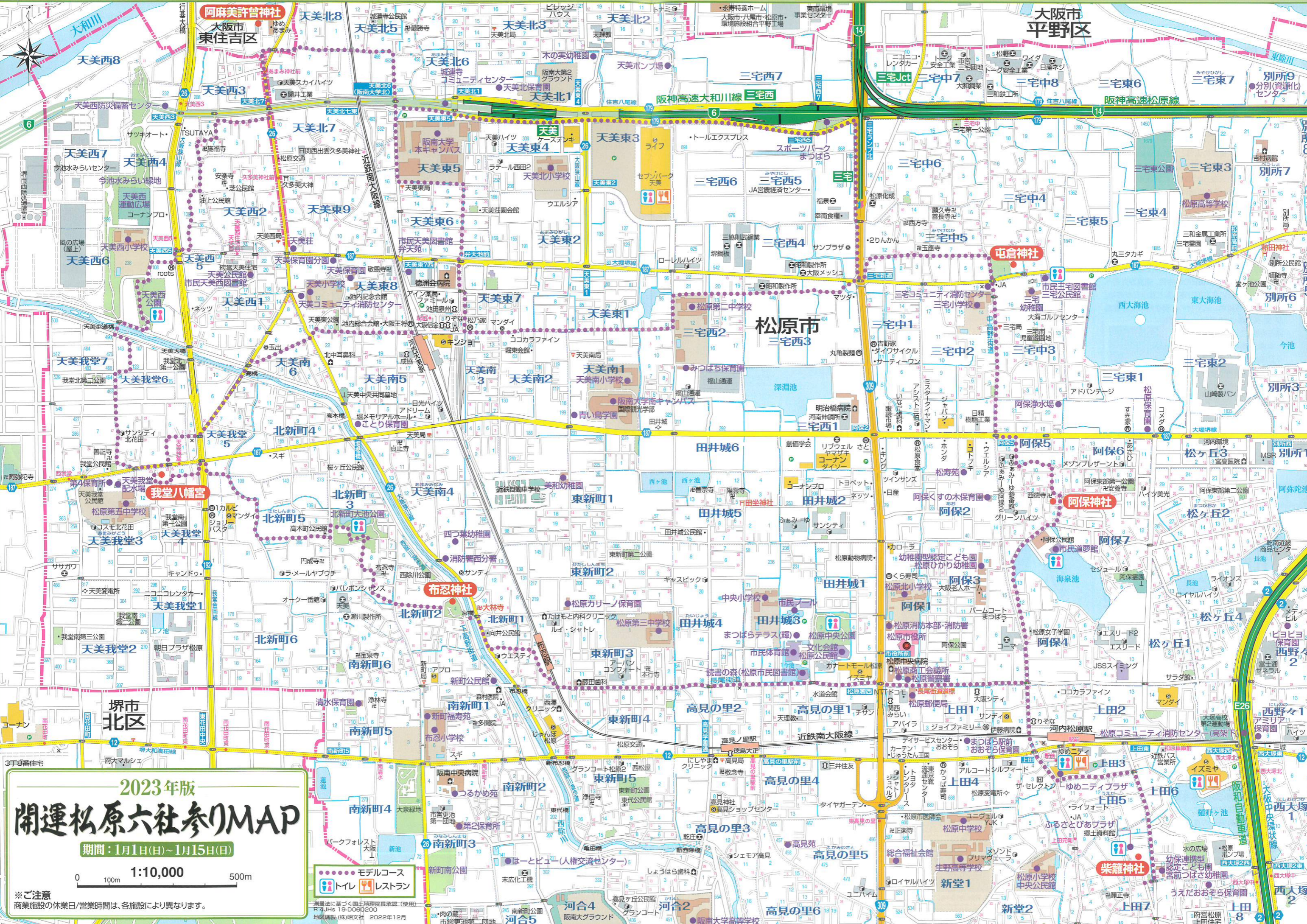
阿麻美許曾神社



我堂八幡宮



布忍神社



**2023年版**  
**開運松原六社参りMAP**  
 期間：1月1日(日)～1月15日(日)  
 1:10,000  
 0 100m 500m  
 ※ご注意  
 商業施設の休業日/営業時間は、各施設により異なります。

- モデルコース
- トイレ
- レストラン

測量法に基づく国土地理院承認(使用)  
 尺1/25,000 19-0069200  
 地図編纂(株)昭文社 2022年12月

# 屯倉神社



住所：松原市三宅中4-1-8 ☎072-331-2510  
祭神：菅原道真・須佐之男命・品陀別命（応神天皇）

古墳時代、天皇家の直轄とされた依網屯倉の旧跡に創建されたと伝え、屯倉（三宅）の名もこれによる。平安時代の天慶5年（942）に菅原道真を祀ったと言われるが、それ以前は、土師氏（のち菅原氏に改姓）の祖神である天穂日命を祀る穂日の社があった。

本殿には、等身大の菅原道真坐像が安置され、挿首形式の頭部は南北朝時代のものである。近世に後補された体内には元和8年（1622）に書かれた丹生講式や柿經の法華経8巻、舍利2粒が納められていた。拜殿前には穂日の社時代、道真が九州へ左遷の折、同社に立ち寄り座したと言う石が残る。「神形石」と呼ばれ、三宅村の庄屋を務めた妻屋氏が文久2年（1862）に標石を建立している。

本殿北側には、同じく三宅に鎮座した延喜式内社の酒屋神社を合祀している。



菅原道真が腰を掛けたといわれる「神形石」

# 阿保神社



住所：松原市阿保5-4-19 ☎072-331-6153  
祭神：菅原道真・阿保親王・市杵島姫命

平安時代前半、菅原道真が九州大宰府に左遷された折、道明寺（藤井寺市）にいた叔母の覺寿尼に暇乞いをするため、京都から難波を経て、三宅、阿保の地を通りここで休息したことから、のち同社が建てられたと伝えられる。「阿保」の地名は、平安時代初頭、51代平城天皇の皇子であった阿保親王がこの地に居住していたという伝承から付けられ、本殿前には「史跡阿保親王住居跡」の石碑が建つ。六歌仙のひとりとして有名な在原業平は、親王の5男である。

本殿北側には、厳島神社と並んで阿保親王を祭神とする親王社が合祀されている。拜殿に掛かる「阿保神社」の扁額は、阿保親王の子孫と伝え、源姓を名乗った西阿保村の保田氏が江戸時代末期に書いたものである。また、拜殿天井には48枚もの花卉図がある。本殿裏にそびえ立つ御神木の大きすの木は、高さ16メートル、幹周り4.5メートル、根株張6メートルにも及ぶ市内有数の巨木である。

令和3年には、150有余年ぶりに大鳥居が建て替えられた。



花天井といわれる色彩豊かで見事な「花卉図（かきず）」

# 柴籬神社



住所：松原市上田7-12-22 ☎072-331-2138  
祭神：18代反正天皇・依羅禰禰・菅原道真

5世紀前半、反正天皇が都とした丹比柴籬宮の跡に、5世紀末、24代仁賢天皇が勅命で創建したと伝えられる。「古事記」によると、反正天皇は生まれた時、珠のような美しい歯を持っていたので瑞齒別命と名付けられたとある。また本社とは別に社務所の真向かいには歯神社が祀られ、毎年8月8日の夜8時8分に万燈籠のもと、健康な歯を祈念する祭礼が行われる。

江戸時代前半、井原西鶴は同社に参詣して「柴籬宮むくけうへてゆふ 柴垣の都哉」の句を詠み、「河内鑑名所記」（延宝7年、1679年）に載せられている。また、拜殿に嘉永7年（1854）8月、立部村氏子26名が奉納した「三十六歌仙園」が掛かる。

参集殿前には「天満宮享和元年（1801）九月」と刻した手水鉢が置かれているが、これは全国で5番目に大きなぜんぽうこうすんあん。前方後円墳の河内大塚山古墳（西大塚）の石室材と考えられる。



日本で唯一の歯磨き面歯に触れると丈夫になるといわれる「歯神」様

# 開運松原六社参りとは



布忍神社・我堂八幡宮・阿麻美許曾神社・屯倉神社・阿保神社・柴籬神社の六社を、お正月の元旦から15日までに参拝する行事です。近年ますます人気を呼び、毎年多くの参拝者が集まるようになっていきます。

最初にお参りした神社（どの神社からでも始められます）で初穂料を納め、横長の絵馬と六社参りMAPを受け取り、すべての神社を回れば、絵馬に六社の参拝印が集まります。それを持って最初の神社に戻れば、干支の張り子が授与されます。

# 阿麻美許曾神社



住所：大阪市東住吉区矢田7-6-18 ☎072-331-0123  
祭神：素盞鳴尊・天兒屋根命・事代主命

古くは阿麻岐志の宮ともいい、天美の地名の由来となった古社である。平安時代初めの大同年間（806～809）の創建と伝える。10世紀前半には、祈年祭にあたって国家から幣帛（供物）をうけることができた由緒深い延喜式内社にも定められた。

境内には、明治の初めまで天見山の山号を持つ神宮寺があった。南および東に建つ門は同寺の山門である。拜殿前の一対の狛犬の台座に「天見山」「阿闍梨快道之代」「文化四年九月」の銘があり、社僧が文化4年（1807）に建立したものである。

手水舎の東側には「行基菩薩安住之地」の石碑が建っている。江戸時代には、同地に奈良時代の高僧である行基が居住していたという伝承があった。神社北西の大和川に架かる橋を行基大橋と呼ぶのはこのためである。



「行基菩薩安住之地」石碑

# 我堂八幡宮



住所：松原市天美我堂4-11-20 ☎072-335-3334  
祭神：品陀別命（応神天皇）

京都の石清水八幡宮の分霊を勧請したものと伝える。江戸時代中期ごろは十五社明神と呼ばれていた。明治初年に八幡神社と称した後、大正2年（1913）に産土神社と改め、のち我堂八幡宮の名で現在に至っている。厄災を祓い清める厄除宮としても知られ、毎年2月には厄除けの「湯立神事」が行われる。

明治初年まで、現社務所の場所に神宮寺の黄檗宗寺院があった。本尊の阿彌陀如来像は、近くの善正寺（天美我堂）に移されている。

現鳥居が旧来の参道であったが、この鳥居側に6個の力石が置かれている。東我堂村・西我堂村の若者が力試しに使った楕円形の自然石である。いずれにも文字が刻まれ、「明治石 東連中□□□」「金剛石 東連中」「八幡石 西連中」「龍王石 西連中」「力石 東連中」「力石 西連中」とあり、明治時代初期のものと思われる。



昔、若者が力くらべをしていた「力石」

# 布忍神社



住所：松原市北新町2-4-11 ☎072-334-7634  
祭神：速須佐男尊・八重事代主之尊・建甕槌雄之尊

本殿は大阪府指定文化財の桃山様式を受け継いだ江戸時代初期の一間社流造。囊殿に速須佐男尊の本地仏である薬師如来をあらわす仏教でみられる梵字（パイ）がはめこまれ、神仏混淆の形をとるものとして貴重である。また、本殿に使用されている木材には南北朝時代の14世紀後半～15世紀代の古材が用いられている。

本殿正面に「布忍宮」の扁額が掲げられているが、これは宇治（京都府）の黄檗宗本山・万福寺第5世である高泉性漱の筆である。本殿身舎の両側面に描かれている唐獅子は、狩野探幽が描いたと伝えられている。

拜殿には宝永2年（1705）11月13日に奉納された「布忍八景」扁額が掲げられており、布忍神社周辺の宮裏白桜、孤村夕照、野塘春日、平田秋月、南山残雪、西海晚望、竹林黄雀、籠池白鷗の八景をけやき板で、1面に2景ずつ4面に納めた。2組つづられ、現存する6面が松原市指定文化財となっている。



現代アーティストのイチハラヒロコとコラボした「恋みくじ」